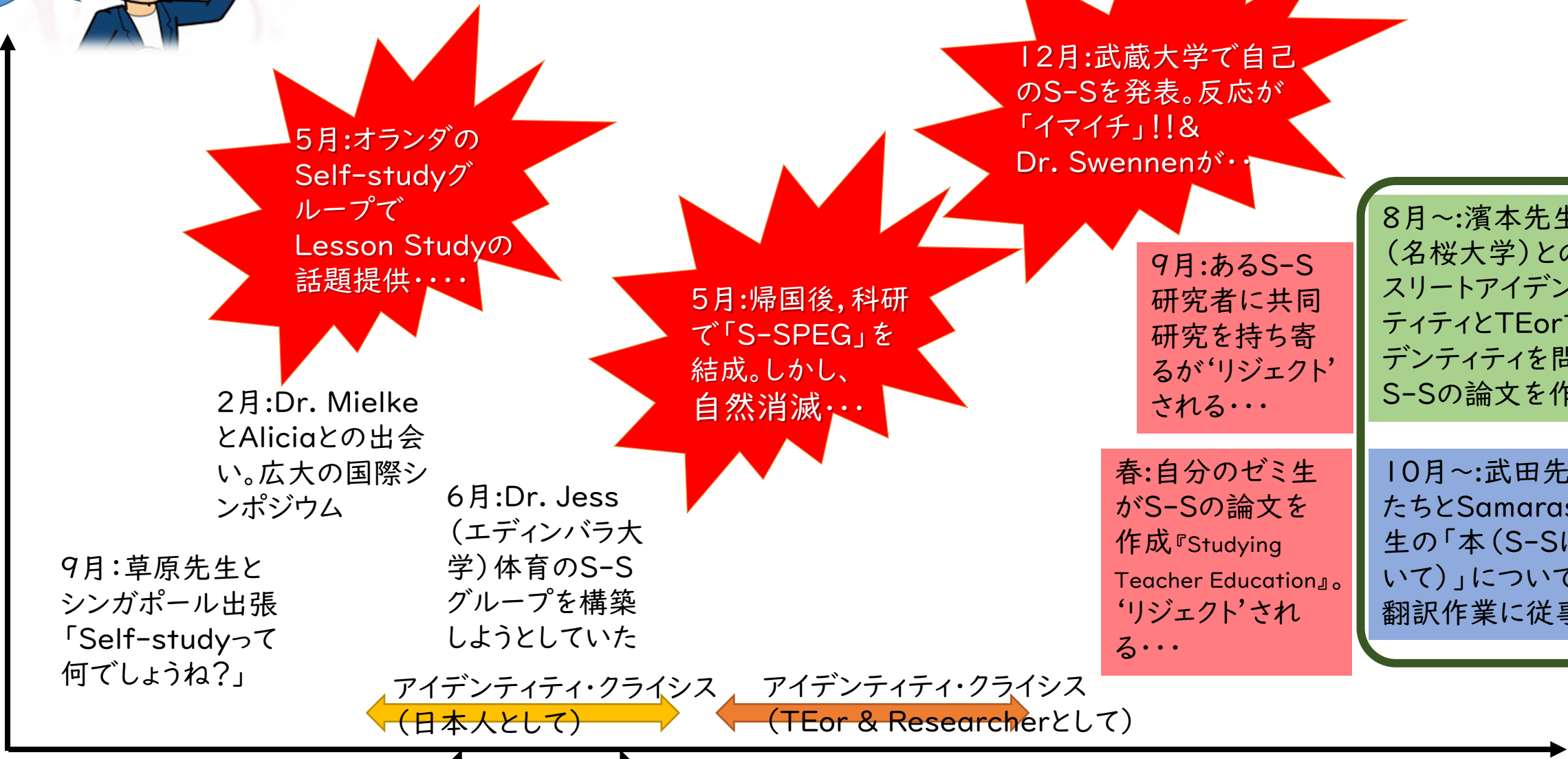


# 岩田昌太郎 (広島大学) とセルフスタディ (研究) との出会い



セルフスタディ (S-S) 研究への **ショック度**



9月: 草原先生とシンガポール出張「Self-studyって何でしょうね?」

2月: Dr. Mielke と Alicia との出会い。広大の国際シンポジウム

5月: オランダの Self-study グループで Lesson Study の話題提供……

6月: Dr. Jess (エディンバラ大学) 体育の S-S グループを構築しようとしていた

5月: 帰国後、科研で「S-SPEG」を結成。しかし、自然消滅……

春: 自分のゼミ生が S-S の論文を作成『Studying Teacher Education』。‘リジェクト’される……

9月: ある S-S 研究者に共同研究を持ち寄るが ‘リジェクト’ される……

12月: 武蔵大学で自己の S-S を発表。反応が「イマイチ」!! & Dr. Swennen が……

8月~: 濱本先生 (名桜大学) とのアスリートアイデンティティと TEor アイデンティティを問う S-S の論文を作成

10月~: 武田先生たちと Samaras 先生の「本 (S-S について)」についての翻訳作業に従事

アイデンティティ・クライシス (日本人として)

アイデンティティ・クライシス (TEor & Researcher として)

2015

2016

サバティカルでオランダ

2017

2018

2019

2020

## 教師教育コミュニティの意味

### 1 コミュニティの重要性

・セルフスタディは個人の気づきにつながるリフレクションとは異なる。実践者もクリティカルフレンドも、気づきを支えあうコミュニティがあってこそ成立する研究である。

### 2 教師教育コミュニティの構築と広がり

・最少コミュニティ（2人）から始まり、少しずつ広げていくことが重要である。  
 ・コミュニティが広がることにより、自身の実践の改善が、教員養成機関の取組の改善に広がるなど、学校文化の変容をもたらす可能性も十分に考えられる

## 研究者・教師教育者としての教師教育研究

### ・ 転機3: イギリスで教師教育者と紹介される(1997)

・ 木原他(2003)「教育実習生の小学校体育科指導の心配に関する事例研究」『日本教科教育学会誌』第25巻,第4号, pp.29-38  
 KW: concern 教師教育者として教育実習を理解せねば！！

### ・ 転機4: 学校教育学部から教育学部に改組(2000)

研究者として教員養成の日英比較を研究せねば！！

・ 木原他(2001)「イングランドにおけるインスペクションの教員養成への影響—ローハンブトン大学のモニタリングシステムとスタッフ研修会を中心に—」『学校教育実践学研究』第14巻, pp. 1-12  
 ・ 木原他(2007)「教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究」『広島大学大学院教育学研究紀要第1部(学習開発関連領域)』第56号, pp.85-91. KW: reflection  
 教師教育者として省察を導入した教員養成授業の改善をせねば！！

研究者として校内研修としての体育授業研究の教師教育としての意義を研究せねば！！

・ 木原他(2015)「小学校体育授業に関する教師の学習過程:研究授業後の協議会における談話分析を中心に」『体育学研究』60,685-699  
 KW: life history

研究者として教員の生涯にわたる体育授業の力量形成過程を研究せねば！！

教師教育のコミュニティ  
 :山内先生・大西先生の発表資料より

日本の大学教員におけるアイデンティティの二面性  
 :木原先生の発表資料より

MONASH University

John Loughran  
 Dean Faculty of Education

教師教育のペダゴジーの確立・発展  
 セルフスタディはメソロジー

Research areas  
 Pedagogy of Teacher Education, Professional Knowledge of

### ・セルフスタディとは

#### 目的

- ・自らの教師教育の実践を改善する
- ・実践知を共通言語としての言葉にする
- ・専門家のコミュニティを形成する

#### 方法

- ・ナラティブ(逸話, エピソード, 物語)
- ・物語が何を語り, どのような目的のために貢献できるかが問われなければならない

#### 学問としての成立要件

- ・厳密なデータ収集と分析
- ・データが安定した経験的なもの
- ・方法が明瞭
- ・理論が共有されている

## 「教師教育のペダゴジーの確立・発展」

:佐々木先生の発表資料より

## ■私の3つの「ショック」からみたセルフスタディの研究

- セルフスタディの特質のひとつ「公表（公開性）=研究論文としては✕」。しかし、3つの「ショック」を経験したことは、悪いことばかりではない。

(1) 自己の「実践 (practice)」と「ペダゴジー (pedagogy)」を変容させることに気づく

(2) クリティカル・フレンドの2面性への気づき(される立場とする立場)

(3) Professional Development (専門性開発) as 教師教育者としても研究者としても

一方、なぜ、ずっと“もやもや”するのか。=自分に臆病(性格分析)? 文化的な背景や立場(アイデンティティ)が違えば・・

<自己探求(自己分析)によるアイデンティティの再構築>

【そのほかへの期待も】

- ①日本の現職教員の研修には有効なのかもしれない。
- ②大学教員のFDを機能させる一つのツールになるかもしれない。